



NOKIA
banners inside

BICの株

昼食の勘定は私が払った。35ユーロ。ためらいなく。

結果はすぐに出た。居合わせた女たちの誰ひとり、それを予想していなかったのだ。だがそれは、ひとつの会合の終わりの始まりにすぎなかった。

セーヌ沿いを歩きながら、彼女たちはぽつりぽつりと探りの質問を投げてきた。どこへ行きたいのか、私には正確にわかっていた。だから一人ずつ、手を引いて、誰にも気づかれぬまま、そこへ連れていった。

ナポレオン・ボナパルトが馬とともにいちばん高い丘に立ち、自分がどう勝つかを見定め、敵が蹴散らされていくさまを眺めていたという話を知っているか、と尋ねてみた。誰も答えられなかった。それでいて私は、フランスの歴史を語るイタリア人の闖入者にすぎないのだ。あはははは。

そして、その時が来た。カフェの前に座り、みんなでアイスクリームを食べていると、いちばん経験豊かな女がついに口を開き、最初の本当の質問をした。

コマ回しの遊びは終わった。全員が地面に戻ってきた。仮面なしで耳を傾け、このゲームがどう終わるのかを見きわめる時が来たのだ。

彼女は全員を代表して、招待に応じてくれたことへの感謝をあらためて述べたうえで、いずれはこの会合の結果を夫たちに報告しなければならないのだと説明した。なにしろ私は、BIC COMPANY WORLDWIDEの脈打つ心臓を借り出したのだ。それも、わずか35ユーロで。

Chanelは少し離れたところに立ち、私を見ていた。心底驚いた様子で、この男はいったい何者なのかと考えているようだった。あなたのような人には会ったことがない、と彼女はのちに打ち明けることになる。

「思うのですが」と婦人は言った。「あなたの能力を考えますと、うちの男たちを全員合わせても、あなたの力量の4分の1にもなりません。そしてあなたは、お書きになったとおりのことを本当にやってのけられる方だと、心から思っております—BICにOPAを仕掛けるということを。ですが、私がお尋ねしたいのはこうです。

GILLETTENARRATIVE.COMを、いくらでお売りにになりたいのですか。お約束します。24時間以内に契約書に署名し、お金を—あるいは株式を—お望みの先へ入金させます」

私は彼女を見て答えた。「なぜ私のサイトが欲しいのですか」

答えはすぐに返ってきた。「APPLEのサイトの中にNOKIAのバナーを出したいのです。これでおわかりでしょう？ フレーガさん、あなたのサイトを手に入れるためなら私どもがどこまでやる覚悟でいるか、あなたには見当もつかないでしょう。私どもにとって、あれは根幹になったのです。何ひとつ失わずに生きつづけるためには欠かせません。たしかに私どもの年間売上は30億ドルですが、営業利益率はつねに2桁でした。膨大な量の製品を世界中に動かさざるをえない企業のような、ブランド流通のコストは背負っておりません。私どもの損益の力学は、3桁の領域で動いているのです」

そこで言葉を切り、こう言った。「果てしない話で時間を無駄にするのはやめて、ご提案をさせてください」

そして彼女は提案した。論理的で理性的な人間なら決して断らない類いの提案だった。

だが私の答えはこうだった。「私の本は、1ドルも払わずに無料でお読みになれます。けれども、GILLETTEの中での58年にわたる一族の尊厳を、ただ金のために取り上げることはできません。あなた方がご覧になっているものすべて。私が築いてきたものすべて。すべて。その値打ちは、たった1米ドルです。そしてその1ドルを私が渡すのは、母だけです。そうあるべきように。息子は決して母と縁を切らない。永遠にその息子でありつづける。そして、母に対する無謀な、あるいは不名誉なふるまいを、誰にも決して許さない。ただ、その息子なのです」

ホテルまで送らせてほしいと言われた。礼を言って断った。別れを告げ、歩き去った。

だが、一日はまだ終わっていなかった。警護チームをまかななければならない。彼らにはもう、私がどこへ向かっているのかわからなくなっていた。パリの地下鉄網の中で3時間、ついに彼らは私を見失った。疲れ果てた。あきらめた。

そして私は、インド人とブラジル人のいる相部屋へ戻った。より偉大な神の息子として。その神に、いつの日か私は謁見を許してやらねばならないだろう。父親がいずれは、いちばん出来の悪い息子に謁見を許すように。

フェルディナンド